

もくぞうびしゃもんでんりゅうぞう
木造毘沙門天立像

<概要>

員数	1 軀
法量	像高 150.3 cm
時代	平安時代後期（10 世紀末～11 世紀初め）

本像は滝山寺本堂須弥壇¹上の南西角に安置されている像高 150.3 cm の毘沙門天立像である。カヤとみられる針葉樹材の縦一材から頭部と体部を彫りだした一木造²で、背面から内削りを施している。現状は素地であるが、当初は彩色されたものと考えられる。一部に赤色や墨描が認められ、背面には鑿痕が多く認められる。足下の二体の邪鬼は、綱で縛られる珍しい形状であるとともに、毘沙門天背面と同様、多くの鑿痕を残している。

以上の材質・構造等と共に、大きい頭部に猪首のずんぐりとした体形、瞋目³の大きな忿怒相⁴の特異な表情、控えめな大袖や裳の動きの表現には、9-10 世紀彫刻に通じる古様さが認められるが、類例の検討により本像の制作年代は 11 世紀初頃と推定される。

このことから、本像は保安（1120-1123）年間に滝山寺が再建された後に造られた本尊の薬師如来坐像より古く、滝山寺に現存する仏像の中でも最古に属す作例と考えられる。前身寺院である吉祥寺より伝来された像である可能性が高い。

県下の毘沙門天像として、岡崎市庚申講兜跋毘沙門天像（9 世紀）、稲沢市舟橋安養寺毘沙門天像（10 世紀末）に次ぐ古例であり、山岳寺院として始まった滝山寺創建期や当地域の歴史を考える上でも重要な作例である。

1 須弥壇：仏像を安置するために、床面より高く設けられた壇。

2 一木造：一本の木材から像を彫り出す技法のこと。

3 瞋目：明王像や神将像の目頭部の輪郭を弧のかたちであらわした目の形式のこと。

4 忿怒相：激しい怒りを示す仏像や仏画の表情。



木造毘沙門天立像



上半身拡大



邪鬼

(愛知県総務部法務文書課県史編さん室提供)